5

JUN 12 1935

大臣

昭和十年六月十一日
經濟情報第九號

一九三五年五月十三日夜ノ米國大藏卿モルゲンソーノ
通貨政策ニ關スルラヂオ放送演說ト其批評
（ニューヨーク・タイムスニ依ル）

外國爲替管理部

本經濟情報ハ外國爲替ニ關係アル事項ニ關シ隨時調査シタルモノヲ執務上ノ參考ニ供スルガ爲印刷セルモノナリ

今晩ノ夜ノ演說ノ目的ハ、複雜ナ貨幣論ノ論議ヲスルニ在ルノデナク、只我國貨幣政策ニ關シテ其ノ理論及根據ヲ二三ノ事實ニ付テ說明シテ了解ニ資セントスルモノデアル。貨幣政策ノ經過ヲ明ニスル順序トシテ先ヅ簡單ニ現在ノ問題ハ如何ナル背景ノ下ニ立ツテヰルカヲ吟味シテ置ク必要ガアル。外國貿易ハ開國以來我國民ノ事業ノ重要ナル要素デアツタガ、世界大戰勃發前ノ十八年間ニ我商品輸出ハ三百十億弗ニ上リ殆ンド其額丈我國ハ商品及勞務ヲ受領シテヰタカラ金ノ流入ハ比較的少額デ一億七千四百萬弗ニ過ギズ又此十八年間ノ外人ノ我國ヘノ投資額ハ廿億弗、我國人ノ外國ヘノ投資額ハ十億弗デアリ大戰勃發當時ノ簿記臺帳ニ依レバ米國人ハ他國人ニ對シ他國人ガ我國人ニ對スルヨリ十億弗丈餘計ニ債務ヲ負フテヰタワケデアッ。然ルニ大戰ノ開始ト共ニ此ノ情勢ハ急激ニ一變シタ。

一九一四年七月ヨリ一九二二年末迄ノ我商品輸出ハ四百七十億弗ニ上リ、此額ノ大部分ハ商品、勞務、金ニ依リ我國ニ支拂ハレタノデアルガ、而モ尙百九十億弗ノ殘高ガ殘存シ、其大部分ニ付テ支拂ノ約束ヲ得タモノデア

ツタ。大戰ヲ境トスル右ノ著シイ對照ニ注意シテ見ヤウ。

戰前ノ十八年間トイフモノハ我國ハ人氣ノアル投資國ノ一デアリ外國ヨリ約十億純弗ヲ引入レテキタノダガ我國ガ債權國トナルヤ、大戰始ヨリ一九二二年末迄ノ八年間ニ百九十億弗ノ資本流出ガ起ツタ。流出ノ傾向ハ之ニ止マラズ輸入額以上ニ輸出シテ一九二九年末迄ニ對外投資ノ蓄積ハ亘ニ廿五億弗増加シタ、我對外貸付ノ總額ヨリ外國人ガ我國ニ有スル貸付總額ヲ控除シテ我純對外貸付ヲ考慮スルナラバ其三分ノ二ハ完全ニ又ハ部分的ニ不履行ノ狀態ニアル。

米國ノ見地ヨリスレバ一九三一年ニ世界的ノ危機ガ到來シタ理由ハ全ク此處ニ其原因ヲ見出ス事ガ出來ル、歐洲ニ擴大シテキタ信用及通貨ノ恐慌ガ同年春ニ其頂上ニ達シタノダガ九月廿一日ニハ英國ノ金本位停止、其後數週間内ニスエーデン、ノルウエー、デンマークノ停止十二月ニ日本ノ停止ガ起リ爾餘ノ諸國モ金本位停止若ハ之ト同樣ノ手段デ爲替ノ統制ヲ開始シタ、諸國ガ金本位ヲ離脱スルト共ニ其通貨ノ對外價値ハ急激ニ下落シ、

我國ノ顧客ハ我製品ヲ買フ際ニ弗ヲ得難クナツテシマツタ、其爲離脱國相互間ニ於テハ可成リ貿易ガ行ハレタガ米國カラハ必要品以外ヲ買ハナクナツテシマツタノデアル、今之ヲ數量デ示セバ一九二九年ヨリ一九三二年ニ至ル期間ニ世界貿易量ハ約四分ノ一方減少シテキルノダガ我輸出ハ同期間ニ約二分ノ一ノ減少デアル又一九三二年ト一九三一年トヲ比較スルト英國ノ貿易量ハ十六パーセントノ増加、日本ハ廿九パーセントノ増加ヲ示シテキル。

或論者ハ米國モ他國ト不幸ヲ共ニシタニスギナイト云ツテキルガ之ハ全ク誤デアル、トイフノハ世界貿易量ガ減少シタ時デモ直ニ金本位ヲ離脱シタ國ハ其貿易量ガ増加シテキルガ我國ハ金本位制ニ踏止ツタ爲他國ヨリモ大ナル苦難ヲナメサセラレタカラデアル。

二三ノ國デハ金庫ノ底ガ見エテキタノデ慌テテ對外信用ノ引上ヲ開始シ之ニ倣ツタ國モアルガ、之等信用ハ凡ソ信用トハ逆ノ方向ニ速ニ作用シ、金ハ之ヲ必要トスル國ヲ逃レ出テ逃込ンダ國ニモ大シタ利益ヲ與ヘナイ狀

態デアツタ、一九三二年一月米國ヨリ莫大ナ金ノ逃避ガ行ハレタガ、人々ハ今度コソアメリカノ番ダトイフ感ヲ深クシタ。トコロガ恐慌ガ目前ニ迫ツテキタニ拘ラズ政府ハ無爲無策デアツタ、歐洲側デハ米國ハ物價、貿易、產業活動ノ破局的デフレーションヲ敢行シナイ以上我國ノ舊平價ヲ維持シ得ナイト觀察シテヰタノデアルガ、前共和黨政府ハ何等ノ對策ヲ施サナイノガ名譽デアルトイフ考カラ頑强ニ手ヲ束ネテヰタノデアツテ之ハ全ク經濟的自殺ト云ハネバナラヌ、ソレ迄ハ外國人ハ米國ノ高イ利子ト迅速ニ得ラレル利潤トニ注目シテ十億純弗以上モ我國ニ投資シテヰタノデアルガ、右ノ事情ヲ見ルヤ急遽引上ノ潮時ト引上ヲ實行シタノデ、恐慌ハ止ル所ヲ知ラナカツタ、引上ニ對シテハ我々ハ彼等ノ不履行ノ手形ヲ以テ對抗スルワケニユカズ況ヤ彼等ノ履行スル手形ヲ以テ對抗スルワケニイカナカツタ、之等ノ諸國ハ我國ニ短資ヲ有シ我國ハ之等諸國ニ長資ヲ有シテ居タノデ此方ノ貸付ガ履行期ニ至ラナイノニ彼方ノ履行期ハ到達シ遠慮會釋無ク引上ゲタノデアル、即チ履行期ニ至レルドノ一弗ニ付テモ金ヲ受取リ得タカラ一九三二年ノ上半期ニハ世

界最大ノ債權國タル米國ガ大部分ハ其債務國タル諸國ニ向ツテ各船毎ニ金ヲ送ラネバナラヌトイフ驚クベキ光景ヲ現出シタ、金ノ流出ハ莫大ナ量ニ上ツタガ要求ニ應ジ得ル丈早ク金ヲ船積シテ送レナカツタカラ投機者ハ之ニ乘ジテ弗賣ヲ行ツタ此投機者ハアナガチ外國人バカリデハナイ、投機者ノ特徴ハ特定ノ一國ニ對スル愛國心トカ忠誠心ヲ全ク持合サナイ事ニアルノダカラ其國籍如何ハ問題デハナイワケダ彼等ハ出來ル事ナラ一國ノ文明迄賣飛バシテシマフ性分ダシ當時ソレガ文明ノ破壞トナル事ヲ知ツテキタトシテモ賣却ヲ敢テシタラウ。

　此ノ金ノ喪失ハ貿易ノ衰頽、卸賣物價ノ下落、廣汎ナ失業ト並ンデ財界ヲ混亂セシメ次デ起ツタ恐慌ハ荒狂フ颶風ノ如クニ全國ヲ席捲シ數箇月ヲ出デズシテ我金融機構ハ崩壞ノ危機ニ直面シタ、一九三三年二月始ヨリルーズベルト大統領就任ノ時迄ノ間ニ約五億弗ノ金ト約廿億弗ノ通貨トガ銀行ヨリ引出サレ、一時ハ銀行ハ個々的ニデナク全國的ニ休業サレントシテキタ、之ガ現政府ノ成立當時ノ狀況デアルガ、ルーズベルトハ宣誓ニ依ツ

テ大統領ニ就任スルト同時ニ最富裕ノ而モ正ニ破産ニ瀕シテヰタ大商會ノ破産管財人ノ職務ヲモ引受ケタワケデアル。

銀行ノ取付ガ停止サレ且金ノ保有ガ舊ニ復サナイ以上ハ我々ハ破局ニ向フノ外ハナカツタカラ此兩手段ハ直ニ實行ニ移サレタ、即チ大統領ハ布告ヲ發シテ銀行ニ休業ヲ命ジ取付ヲ停止セシメ又命ヲ發シテ金ヲ政府ノ管理下ニ置キ之ガ違反者ニ對シテハ罰則ヲ規定シタ、此ノ兩處置ハ國內ノ緊急ノ要ニ應ズルモノデアツタガ更ニ金輸出禁止ヲ行ツテ外國ヘノ流出ヲ止メタガ我國ハ金本位ヲ離脫セル最初ノ國デナク第卅一番目ノ國デアリ之ニ依ツテ弗ヲ當時ノ世界ノ現實狀態ニ步調ヲ合セシメル事トシタワケデアル、離脫ノ操作ハ一九三四年一月弗ノ金純分ヲ五九、〇六パーセント迄切下ゲルコトニ依リ完成セラレタ、爾來我國ノ通貨ハ世界中デ最モ健全ナモノトナツテヰルガソノ證據ニハ殘高支拂ノ爲デナク通貨ノ安全ナルガ爲ニ金ガ我國ニ戾ツテヰル事實ガアリ一九三二年カラ一九三三年二月ニカケテ我國ヨリ金ノ流出ヲ圖ツタ投機者ニシテ今デハ金ヲ我國內ニ持チ歸ツテヰル者

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ガアル。

扨、本論ニ立返ツテ此ノ切下後ノ弗ガ外國貿易ニ及ボシタ效果ヲ考ヘテ見ヤウ普通ニ使ハレテヰル三ツノ標準ヲ取ツテミルト、

第一ニ、貿易量ニ於テハ一九三四年ノ我輸出貿易ハ一九三二年及一九三三年ニ比シテ增加シテヰル、

第二ニ、弗價ニ於テモ一九三四年我外國貿易ハ一九三二年及一九三三年ニ比シテ增加シテヰル、

第三ニ、全世界貿易量中ニ於テ我貿易ノ占ムル割合ヲ見テモ一九三四年ハ一九三二年及一九三三年ニ比シテ增加シテヰル、

我農產物ノ輸出ハ減退シツツアツタノダカラ貿易ノ恢復ハソレ丈餘計ニ目覺マシカツタワケデアル。

一九三四年ノ棉ノ輸出ハ一九三二年ニ比シテ三分ノ二ニ當ルガ受取價額ヨリ云ヘバ七パーセント增加シテヰル、小麥價格モ高クハナツタガ其理由ハ主トシテ旱魃ニ基クモノデアラウ、小麥ノ輸出ハ割當制ヤ輸入禁止ニ依

ツテ阻マレテキルガ又嘗テハ我國ノ顧客タリシ國デモ國策上ノ理由カラ高價格ナルニ拘ラズ自給主義ヲ採用シタ方ガヨイト考ヘテキル様ダ、之等ノ特殊ナ原因ガアル爲我貨幣政策ノ農産物輸出ニ及ボシタ影響ヲ公平正確ニ算出スル事ハ不可能デアル。

工業品ニ關シテハヨリヨク調ベル事ガデキヤウ、一九三四年ノ完成品輸出數量ハ一九三二年ニ比シテ卅七パーセントノ増加、半製品ハ四七パーセントノ増加デアル、具体的ニ之ヲ説明スル爲自動車ヲ例ニ取ツテ見ヤウ、

一九三〇年ハ二三八、〇〇〇臺ノ輸出、

一九三二年ハ金本位ニ踏止マツタニ拘ラズ六五、〇〇〇臺ノ輸出、

一九三三年ハルーズベルトノ貨幣政策ノ下ニ於テ、一〇七、〇〇〇臺ノ輸出、

一九三四年ハ前年ノ二倍以上トナリ一九三〇年ノ數量ニ復歸シタ、

輸出減退期ニ於テモ諸國ハ依然トシテ我國ノ自動車ヲ買ヒタカツタノデアルガソノ代金トシテ弗ヲ得ル事ガ困難デアツタノデ別ニ外國トノ競爭ガ激甚ヲ極メタワケデハナク、車ノ品質モ前ト同様或ハ前ヨリモ更ニ良好デ

アリ、弗モ昂騰シテヰタノデハナイガ他ノ通貨ニ比シテ高過ギタ爲ニ、商品ヲ賣得ナイトイフ時期ガアツタワケデアル、現政府ガ弗ノ切下ヲ行ツテカラハ自動車工業ハ直チニ失ヘル市場ヲ恢復シ、全國的ニ利益ヲ受ケテヰル。

切下ニ依ツテ弗ヲ他國ノ通貨ト適當ナ關係ニ置イテ貿易ヲ恢復シタトコロガ何ノ役ニモ立タナイデハナイカト云フ者ガアルガ斯ル論者ニ對シテ余ハ最モ事情ニ通ジテヰルベキ生產者ノ答申ヲオ見セシヤウ、

我國主要產業ノ代表的廿九會社ニ對シテ、

第一、其商品輸出ハ增加シツツアルカ、

第二、其使用人ノ數ハ增加シツツアルカ、ノ二問ヲ發シ、

第三、其公表報告ニ依ツテ果シテ利益ヲ得ツツアルカ否カヲ調ベテミタ。

第一ノ問ニ對シテハ增加シツツアリトノ答ヲ得タ、卽チルーズベルトノ貨幣政策施行後丸一年ノ統計ヲ得ベキ最初ノ年タル一九三四年ニ於テ輸出ハ一九三二年ヨリ五十九パーセント增加シテヰル。

第二ノ問ニ對シテモ增加シツツアリトノ答ヲ受ケタ、即チ一九三四年ニハ一九三三年ヨリモ二〇四、〇〇〇人丈餘計ニ人ガ働イテヰル。

第三ニ然ラバ果シテ利益ヲ得ツツアリヤトイフニ矢張リ利益ハ增加シテヰル、即チ一九三二年ノ損失總計ハ一億二千百萬弗、一九三四年ノ利益總計ハ一億二千八百萬弗デアリ此等ノ總計ニハ國內ノ賣却ニ依ルモノモ含マレテヰルガ國內ノ賣行ハ輸出ト同ジ傾向ヲ辿リ、貿易ノ最モ衰頽シタ時ハ國內ノ賣行モ最惡デアリ、ルーズベルトノ貨幣政策ノ下ニ於テ貿易ガ振興シテキタ時ニハ國內ノ賣行モ良好ニナツテキタノデアルカラ右ノ統計ハ最モ信頼シ得ベキ材料ト云フ事ガデキル、今後モ世界ノ貿易ガ伸長シサウナ趨勢ニアルガ我貨幣政策ハ其正當ナ分ケ前ヲ保持スルニ在ルノデ更ニ其ヲ擴大シヤウトスルモノデハナイ、平價切下競爭ヲヤル意思ハ毛頭ナク只弗ヲ堅實ニ維持シテ他國モ自然ニ少シヅツ爲替安定ノ方向ニ向フ樣ニスルダケデアル、若シ之ガ實現スレバ、最後ノ手段モ容易ニ且人爲的ナ方策ヲ俟タズニヤツテ來ヤウ。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

貨幣政策ニ關聯セシメテ外國貿易ノ將來ヲ考ヘル時、我國カラ金ヲ貸シテヤラナケレバ我商品ヲ購買デキナイ様ナ國ニ依然トシテ輸出ヲ續ケルベキカノ問題ニ逢着スル、勿論輸出手形ヲイクラデモ爲替銀行ニ賣ルコトハデキルガコンナ手形ヲ澤山持ツテ金持ノツモリデヰタ一九二〇年代ノ例ニハモウ懲々ダ、現在ノ貨幣政策ノ下ニ於テハ手形ヲ振出ス代リニ金銀ヲ受取ツテヰル、尤モ之ニハ貿易ノ決濟ヲツケル爲ニ來ルモノノ外ニ通貨ノ安全ナ爲ニ流入シテ來ルモノモアルガ、學者中ニハ此政策ヲ續行シテ他國カラ金ヲ剝奪スルナラバ我國ノ貿易モ衰ヘルダラウト論ズル者ガアル併シ現ニ他國カラ金ヲ剝奪スルワケデハナイ、成程我金保有高ハ未曾有ノ高ニ上ツテヰルガ世界ノ金供給高モ急激ニ增加シ現在年十億デアルガ今後モ增加シテ行クデアラウ、諸國デハ貨幣準備ヲ舊ニ復シテヰルガ其保有高ノ割合ハ大シテ變化シテヰナイ、卽チ我國ハ一九二二年ニ世界ノ貨幣用金ノ四一、七パーセントヲ有シ現在ハ三八、八パーセント、佛國ハ一九二二年ニ八、四パーセント現在ハ二四、八パーセント、英國ハ一九三一年金本位停止直

前ニ大量ノ金ヲ失ヒ五、二パーセントトナツタガ現在ハ七、二パーセントデアル、生産高ガ増大シ、又隱匿サレテキタ金ガ何十億モ流通シ始メタカラ其或部分ハ貿易殘高ノ決濟ニ用ヒラレルデアラウ。

銀ハ諸國デ貨幣トシテ使用シテキルガ我國モ之ガ鑄貨トシテノ效用ヲ增大シツツアル、世界ノ大量ノ金銀ガ我大藏省ニ集メラレテモ何ノ效果モ生ジナイトノ非難ガアルガ併シ之ハ尠トモ我貨幣準備ヲ膨張セシムル效果ガアル、然ルニ對外貸付ヲ爲シテ不履行トナル場合ハ通貨ニ對シテ良イ背景トハナラズ何等效果ノナイモノデアル。故ニ兩者孰レヲ取ルカト云ヘバ政府ハ國際決濟ヲ貨幣用金屬デ支拂ツテモラフ方ヲ採ルノデアル。

或論者ハ「米國ガ現在ノ金純分ヲ變更シナイト宣言シテ安定ヲ圖ルベキダ」トナシ「他國モ米國ノ例ニ傚フデアラウ」ト主張シテキルガ、モシ我國一國ガ斯カル處置ヲ執ルナラバソレコソ再ビ一九三二年當時ノ狀態ニ引戾サレ、諸國ハ之ヲ機會ト我國ノ不利益ニツケコンデクルニ違イナイ、我々モ世界ノ繁榮ノ重要性ヲ痛感シテオリ繁榮ニ資スベキ凡ユル機會ヲ捉ヘ

ント努メテキルガ我國ヲ犧牲ニシテ迄他國ニ寄與スル必要ハナイ。

終ニ臨ンデ余ノ演説ヲ要約スレバ、

(一)弗ハ絶對ニ健全デアル、

(二)現政府ノ貨幣政策ハ我々ヲ混亂ヨリ救ヒ出シ、復興計畫ノ試驗期ニハ防壁ノ役目ヲ爲シ、現在ハ我々ノ目的到達ノ爲先驅トナツテキル

(三)ベルギーヲ除外スレバ我國ハ平價切下ヲ爲セル最後ノ大貿易國デアル、諸國ガ爲替安定ヲ圖ルナラバ、ワシントンハ決シテ之ガ邪魔トナル事ハナカラウ我國ハ恰モ人ノ喧嘩ヲ見テキル中ニ捲込マレテ自分モヒドイ目ニ逢ハサレタ見物人ノ樣ナモノデ「米國ノミガ特ニ秩序回復ノ道德的義務ヲ負ツテキル」ト人カラ忠告サレル理由ナドハ何處ニアラウカ、我國ガ何等カノ言質ヲ與ヘル前ニ、ヤツト取戻シタバカリノモノヲ失フワケニハイカナイトイフ事ヲヨク承知セネバナラナイ、我國モ安定ヲ望マナイワケデハナイガ他ノ大貿易國ガ現在ノ樣ニ無軌道ニ進ム以上此方モ不利ニ甘ンズルワケニハイカナイ、我國ハ必要以上ニ平價切下ヲ行ツタノ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
0000 0528

デハナイカラ孰レノ方向ニモ自由ニ進ミ得ル可能性ヲ持ツテヰル。

0000 0529
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（附　錄）

モーゲンソーノ演說ニ引用サレタ廿九會社ノ報告ノ要旨ヲ大藏省ハ五月十三日夜發表シタ。

	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
國內賣買高	三、四七五、〇〇〇千弗	三、三八〇、〇〇〇千弗	三、五七一、〇〇〇千弗	三、二二〇、〇〇〇千弗
%	一〇〇	六八、五	七四、〇	九二、七
對外貿易高	二六四、〇〇〇	一八一、〇〇〇	二〇九、〇〇〇	二八七、〇〇〇
%	一〇〇	六八、六	七九、二	一〇八、七
總計	三、七三九、〇〇〇	三、五六一、〇〇〇	三、七八〇、〇〇〇	三、五〇七、〇〇〇
%	一〇〇	六八、五	七四、四	九三、八
貿易ノ總計ニ對スル比率	七、一	七、一	七、五	八、二
十二月末ノ使用人	六七七、〇〇〇人	五九三、〇〇〇人	七三三、〇〇〇人	七九六、〇〇〇人
%	一〇〇	八七、四	一〇八、一	一一七、六
公表利益	七七、四〇〇千弗	一二一、〇〇〇千弗	三九、一〇〇千弗	一二八、一〇〇千弗
(記當前ノ利益)		(一)		

大藏卿ノ演説ニ對スル反響

ウオール街筋デハ大藏卿ノ演説ヲ以テ、各國政府ガ通貨安定會議ニ參加スルノ意向アリヤ否ヤヲ探ツタモノデアルト解シ、若シ然ラズトセバ演説ハ存外ツマラヌモノダトシテキル、トイフノハ通貨問題ノ具体的取扱方ヤ銀問題ニ對スル政府ノ態度ニ觸レテキナイカラデアル。

或ル論者ハ演説ハ國内ノ復興計畫ヲ更ニ安定セシムル爲デアルト解シテキルガ兎ニ角「アメリカノ弗」ナル題目ニ於テ通貨安定問題ニ觸レタノダカラ多クノ人ニ意外ノ感ヲ起サシメタ。

外交界ニ於テモ演説ハ關係各國ガ通貨問題ノ解決ノ可能性ニ付キ新ニ研究スルノ端緒トナリ且國際會議ノ招集ニ付テ探リヲ入レタモノト解シテ居ル演説ニ先チ大藏卿ハ大統領ト草稿ニ付テ相談シテ居ルカラ各國モ愼重ニ考慮ヲ拂フデアラウ。バーゼルノ國際決濟銀行總裁タル米人フレーザー氏ガ之ト時ヲ同ジウシテ通貨安定ノ提唱ヲ爲シタ事ハ注目ニ値スル。

以前カラ「正當ナ條件ノ下ニ於テナラバ米國ハ何時デモ喜ンデ他國ト安定

交渉ヲスルトイフ聲明ヤ演説ガ行ハレテ居タノダガビンガム駐英大使ノ聲明ヤ演説ハ個人的ナ意見トシテ發見サレタシ且米國要路モ之ニ付テ批評ヲ求メラレタ際支持ノ意向ヲ漠然ト言明シタニスギナカツタ。

又紐育ノ聯邦準備銀行ノ代表者ガ英國其他ノ歐洲諸國ト中央銀行代表者ト非公式會談ヲ爲シ米國政府ヲ拘束スル事ナシニ國際會議ノ瀬踏ヲシテヰルトノ報道モ前カラ屢々行ハレタ。

英國ハ從來斯ル提議ニハ冷淡デアリ、三月七日チエンバレン藏相ハ下院ニ於テ未ダ安定ヲ圖ル時期ニ非ズトナシ「英國ハ磅ヲ弗ヤフランノ掌中ニ置ク樣ナ危險ヲ冒スワケニハイカヌ、金本位ニ復歸スルカニ付テモ一旦復歸スル以上永ク之ヲ維持シ得ル程ノ好條件ガナイナラバ現狀ヲ變ヘルワケニイカナイ」ト述ベテヰル。

今回ノ演説ノ最モ重要ナ反響ハ矢張リ英國ニ對スルモノデアルガ、英國ニ於テハ右演説ガ内容漠然何等新シキ對策ナシトシテ重要視セズ爲替市場ニ何等ノ影響無ク只銀政策ニ關シテハ最近ノ政策一部變更ノ期待ヲ一變スル

モノトシテ思惑筋ガ銀ヲ買向ツタノデ一時急騰シタ。大藏卿ガインフレーシヨニストニ對シテ何等ノ反駁ヲ爲サズ徒ニ排外的言辭ヲ弄シテ他國ニ對スル與論ヲ刺戟スルノ戰法ニ出タ事ヲ遺憾トシ、英國ガ通貨安定會議ヲ召集スレバ米國ハ之ニ應ズルデアラウガ此前ノロンドン經濟會議當時ヨリ緩和シタ態度ヲ望ム事ハ出來マイト觀察シテキル、五月十六日チエンバレン藏相ハ全英銀行業者大會晩餐會ニ臨ミ國際經濟安定ニ言及シタガ米國大藏卿ノ會議招集ノ慫慂ニ對シテハ冷淡デアツタ卽チ日ク「爲替安定ノ如キハ重要問題デアルガ併シ他ノ經濟的諸要素ト離レテ之ダケヲ解決スルワケニハイカナイ、余ノ考デハ爲替ノ協定ハモツト永久的ナ見越ガ立タヌ限リ困難デアルト思フ」ト述ベタ。

五月廿日以後米國上院議員タイディングス商務卿ローパー、國務卿ハルノ三氏ガ通貨安定會議ヲ支持スル演說ヲ爲シタガ國務卿ガ會議招集ノ意向ヲ有スルトノ紐育及東京ノ報道ハ國務省ニ依リ否定セラレ又N、R、Aノ違憲判決ハ招集ヲ實際的ニ不可能ナラシメタ、五月卅日英國首相モ英國ガ會

議招集ノ意思ナキ事ヲ明ニシテオリ當分斯ル會議ノ實現ノ見込ハナイ。

0000 0534
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

6

10. 6. 13

大臣

昭和十年六月十二日
經濟情報第二卷第十號

外國銀貨輸入禁止ニ關スル米國大藏省令ニ付テ
（ニューヨーク・タイムスニ據ル）

外國爲替管理部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp